

ア、期 間 3か月
 イ、場 所 国立特殊教育総合研究所
 ウ、派遣者 福島県立郡山養護学校教諭 辺 見 新 治

エ、研修内容
 ○ 脳性まひ児の学習障害と学習指導
 ○ 脳性まひ児の動作訓練

③ 病弱教育コース

ア、期 間 3か月
 イ、場 所 国立特殊教育総合研究所
 ウ、派遣者 福島県立須賀川養護学校教諭 齋 藤 時 子

エ、研修内容
 ○ 病弱教育の意義
 ○ 病弱児の心理
 ○ 病弱児の生理・病理
 ○ 養護訓練の指導計画の立て方

④ 精神薄弱教育コース

ア、期 間 3か月
 イ、場 所 国立特殊教育総合研究所
 ウ、派遣者 福島県立西郷養護学校教諭 三 品 胖

エ、研修内容
 ○ 精神薄弱児の心理特性
 ○ 精神薄弱児の医学各論
 ○ 精神薄弱児の学習指導

(3) 特殊教育教育課程地区別研究集会

① 目 的
 盲学校、聾学校及び養護学校並びに小学校及び中学校の特殊学級（精神薄弱特殊学級を除く）

② 主 催 文部省
 ③ 期 日 昭和49年8月22日(木)～24日(土)
 ④ 会 場 静岡県熱海市
 ⑤ 派 遣 者

視覚障害教育部会 3名
 聴覚障害教育部会 4名
 し体不自由教育部会 3名
 病弱教育部会 2名
 精神薄弱教育部会 2名

(4) 特殊教育諸学校寮母講習会

① 目 的
 盲学校、聾学校及び養護学校の寄宿舎において幼児、児童及び生徒の指導に当たる寮母の資質向上を図る。

② 主 催 文部省
 ③ 期 日 昭和49年8月6日(火)～8日(木)
 ④ 会 場 国立赤城青年の家
 ⑤ 派 遣 者

福島県立福島盲学校 浅野目 綾 子
 同 郡山聾学校 鬼 沢 まち子
 同 郡山養護学校 三 浦 ユキ子
 同 同 藤 井 文 子
 同 平養護学校 鈴 木 京 子
 同 同 有 賀 知 子

(5) 特殊教育教育課程研究発表大会

① 目 的
 特殊教育教育課程地区別研究集会及び精神薄弱教育課程都道府県研究集会の研究成果を全国的規模において発表交換するとともに、特殊教育教育課程に関する諸問題を研究協議し、もって学習指導の改善に資する。

② 主 催 文部省
 ③ 期 日 昭和49年12月3日(火)～5日(木)
 ④ 会 場 国立教育会館
 ⑤ 派 遣 者

視覚障害教育部会 3名
 聴覚障害教育部会 4名
 し体不自由教育部会 3名
 病弱教育部会 2名
 精神薄弱教育部会 2名

第9節 へき地教育

本県における、へき地学校数は「第3章第6節へき地対策（へき地学校の状況、本県へき地学校の概要）」の項で述べているが、県全体の学校数に対して、'小学校は37.0%、中学校は25.0%を占めている。また、その分布を地域別に見ると、へき地学校全体の46%が会津方部、24%が県中南方部、22%が浜方部、8%が県北方部であり、会津方部に高度へき地指定が目立つのが本県へき地の特色である。

これらへき地の教育のため、下記事業を実施しへき地教育の振興に努めた。

1 へき地教育担当教員研修会

(1) 趣 旨

本県の複式学級及び3個学年複式学級は359学級、担当教員360名で、担当教員のうち約3分1が新しく担当した者である。これら複式学級担当教員（120名）に対し、複式用教科書の活用のしかた、各教科学習指導計画の立て方及び指導法、シート式磁気録音機並びにオーバーヘッドプロジェクターの活用のしかた等を中心に研修し、複式学級学習指導法の改善・向上を図ることを目的としている。

(2) 期日と会場

昭和49年8月8日(木)～10日(土) 3日間
 福島県教育センター

(3) 指導助言者

○ 県教育庁義務教育課、主幹、主任指導主事、指導主事
 ○ 川俣町立小島小学校田代分校教諭 鈴 木 節 男

(4) 研修内容

① 複式学級指導上の諸問題
 ② 複式学級における国語科、社会科、算数科の学習指導法
 ③ シート式磁気録音機、オーバーヘッドプロジェクターの活用と操作実習及びシートの作成

2 へき地教育研究指定校

(1) 趣 旨

本県へき地学校における学力向上を図るため、へき地に